黒部川ダム排砂評価委員会開催結果

１．第７回黒部川ダム排砂評価委員会

●開催要件

〇開催日時　平成12年11月22日（水）14：00 ～ 16：10

〇会　　場　富山市於、「ボルファート富山」４Ｆ珊瑚の間

〇出 席 者

委員長　吉原節夫　富山大学名誉教授、高岡法科大学学長（民法）

委　員　高倉盛安　元富山県立短期大学学部長（環境）

田中　晋　富山大学教育学部教授（生物学）

広瀬慎一　富山県立短期大学部教授（利水工学）

藤井昭二　富山大学名誉教授（地質学）

本城凡夫　九州大学農学部教授（水産増殖環境学）

中村弘二　富山県水産試験場長（漁業）

楠井隆史　富山県立大学短期大学部教授（環境）

※大熊孝委員（新潟大学工学部教授、河川工学）

竹内章委員（富山大学理学部教授、海洋地質学）

小川嘉彦委員（水産庁日本海区水産研究所長）は欠席

顧　問　柳田友道　東京大学名誉教授、富山大学名誉教授

事務局　北陸地方建設局

関西電力㈱北陸支社

●議　事

①平成１２年度連携排砂の経緯について

②平成１２年度土砂変質進行抑制策の結果について

③平成１３年度にむけての調査計画（案）

●委員会での評価

〇平成１２年度連携排砂の経緯について

　連携排砂期間（７月１０日～８月３１日）で基準流量がなく排砂は実施しなかった。

【委員の意見】

・特になし。

〇平成１２年度土砂変質進行抑制策の結果について

【委員の意見】

・出し平ダム湖の底質（表層）調査結果より、ＯＲＰ（酸化還元電位）値が改善されていることは、抑制効果があった。また、今後積極的に実施することも検討すべきではないか。

・Ｔ－Ｐ（総リン）の値が高くなる変化は、新鮮な土砂が上流から供給したことによるものと思われる。

・微細粒子が排砂ゲートを開けることにより、ダム貯水池に貯まることなく下流に流れることも評価してよいのではないか。

〇平成１３年度にむけての調査計画（案）

【委員の意見】

・調査内容については、事務局で調査計画を再整理し、短期的な課題と長期的な課題に分けて、調査を実施すること。

・排砂時の土砂が海域でどのように流れ、堆積するかを、シュミュレーションする必要があると思う。

・生物モニタリング調査を排砂時（短期）のみならず、長期的に実施する必要がある。

２．第８回黒部川ダム排砂評価委員会

●開催要件

〇開催日時　平成１３年３月３０日（金）14：00～１７：10

〇会　　場　富山市於、「ボルファート富山」４Ｆ珊瑚の間

〇出 席 者

委員長　吉原節夫　富山大学名誉教授、高岡法科大学学長（民法）

委　員　大熊　孝　新潟大学工学部教授（河川工学）

楠井隆史　富山県立大学短期大学部教授（環境）

高倉盛安　元富山県立短期大学学部長（環境）

竹内　章　富山大学理学部教授（海洋地質学）

田中　晋　富山大学教育学部教授（生物学）

中村弘二　富山県水産試験場長（漁業）

広瀬慎一　富山県立短期大学部教授（利水工学）

藤井昭二　富山大学名誉教授（地質学）

本城凡夫　九州大学農学部教授（水産増殖環境学）

顧　問　柳田友道　東京大学名誉教授、富山大学名誉教授

事務局　北陸地方整備局

関西電力㈱北陸支社

●議　事

①平成１２年度連携排砂環境影響継続調査結果について

②平成１２年度貯水池モニタリング調査結果について

③黒部川河口沿岸海域調査に伴う底質分析結果について

④平成１３年度連携排砂計画（案）について

⑤平成１３年度連携排砂に伴う環境影響調査計画（案）について

⑥連携排砂に関する調査・検討計画（案）について

●委員会（平成１３年３月３０日）での評価

【評価】

１．土砂変質進行抑制策実施後の出し平ダム・宇奈月ダム貯水池モニタリング調査結果では、特に問題となる現象は見られなかった。

２．１３年度連携排砂計画（案）の排砂基準に関する特記事項については、事務局提案の主旨には賛成であるが、排砂実施の判断基準流量を、ベース流量の大きい時期に限り出し平ダム流入量が２５０ m3/s に達し、河川に濁りが認められる場合として、排砂実施の判断基準を具体的に明記すること。

３．土砂変質進行抑制策の実施にあたっては、１３年度も必要な環境調査を実施すること。

４．評価委員会の意見を踏まえて、１３年度連携排砂計画の事務局案を修正し、関係団体・機関に十分説明の上、土砂管理協議会において協議・調整を図ること。

平成13年度連携排砂計画（案）

項　　目	排　　砂		通　　砂	
	宇奈月ダム	出し平ダム	宇奈月ダム	出し平ダム
（１）時期	・６月～８月でダム流入量が、出し平ダムで300㎥／ｓ、宇奈月ダムで400㎥／ｓのいずれかを上回る最初の出洪水時に実施。		・６月～８月で排砂後のダム流入量が、出し平ダムで480㎥／ｓ、宇奈月ダムで650㎥／ｓのいずれかを上回る出洪水時にその都度実施。	
（２）排砂量	・目標排砂量０	・目標排砂量約５８万 m^3	・自然の出洪水流を排砂ゲートを用いてその都度流下させる。	
（３）方法	・自然流下方式		・同左	
（４）時間	・自然流下時間最低１２時間	・宇奈月ダム自然流下内に完了（自然流下時間最低２４時間）	・自然流下時間１２時間	・宇奈月ダム自然流下時間内に完了
（５）排砂・通砂前の措置	・出洪水の調節の後期（ダム水位が高い）段階から水位低下操作運用とする。	・出洪水の初期（ダム水位が高い）段階から排砂ゲートを開ける運用とする。	・同左	
（６）排砂・通砂後の措置	・排砂後２４時間はダム流入量をダムおよび宇奈月発電所から放流する。	・排砂後２４時間は原則として発電取水を停止し、ダム流入量をそのまま放流する。	・通砂後１２時間は、ダム流入量をダム及び下流発電所から放流する。	

【特記事項】

１．上記の排砂条件を満足する出洪水の発生がない場合を想定して、出し平ダム・宇奈月ダムにおいては、出洪水時のダム放流の一部を排砂ゲートを用いて行うことにより、土砂変質の進行を抑制することとする。

２．大規模な土砂の流入等、不測の事態が発生した場合、また発生が予想される場合については、その対応について適宜協議していくこととする。

３．連携排砂の実施期間のうち融雪期、梅雨期の流量の大きい時期に限り、河川の流量や濁りの状況にあわせて、排砂を実施・中止できることとする。